

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名	白石町立六角小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力の向上」では、着実に実践が効果を上げているが、まだ目標達成にまでは至っていない。今後も児童が達成感を感じ、自分の考えを自分の言葉で説明できる児童の育成を目指して全職員で取り組んでいく。 ・あいさつに関しては、学校では出来ているが、家庭や地域ではまだまだ出来ていないということが明らかになった。今後も家庭への協力の働きかけと、児童の自己肯定感を高める取組を計画的に仕組んでいく。 ・歯と口の健康については、児童の意識もずいぶん高まりつつあると思われるが、朝の歯みがきが出来ていない児童が多いことが明らかになった。今後は朝の歯みがきの実施率を上げるためにも、早寝早起き朝ご飯など、生活習慣を改善できるよう、家庭との連携を図っていく。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善 ②人権教育、特別支援教育の充実 ③家庭や地域との連携による望ましい生活習慣の形成

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組		具体的取組	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員90%以上	・マイプランを校内研修で共有し、取り組みについて共通理解を図る。 ・学習への心構えなどの共通理解と日常指導 ・「六角っ子がんばりカード」での保護者との協働による家庭学習習慣の定着	かしこく部
	○確かな学力をつけるために、分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○「なぜそう考えたのか自分の言葉で説明できる」と回答をした児童を80%以上 ○授業づくりステップ1・2・3を意識し、ステップを1から2、2から3へとあげることができる教師を85%以上	・授業づくりに関する研修等の実践 ・児童のつぶやきや考えを引き出すための発問の精選 ・授業づくりステップ1・2・3を継続して意識できるよう、セルフチェックタイムを設定する。	かしこく部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達の良いところを認めたり、見つけたりすることができた。」と回答した児童を90%以上 ○「協働」についての質問に対して、肯定的な回答をした児童を90%以上	・人権教育や道徳科の授業作りや学級経営などについての校内研修などの実施。 ・多様性を認め合ったり、互いのよさを生かしたりしながら、協働する活動を仕組む。	やさしく部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員を90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・教育相談体制の充実(「不登校対策支援シート」の活用と「心の元気チェック」の実施)	管理職 やさしく部
	○児童が自己肯定感を高め、目標をもって意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自分にはよいところがある」と回答した児童90%以上 ○学校や学級で自分の役割があり、進んで活動することができた」と回答した児童85%以上	・児童が目標や見通しを考え実行し、振り返りを行う活動を仕組む。(係・児童会・集会など)	
●健康・体づくり	②望ましい生活習慣の形成	②歯と口の健康について学んだことを「家でも取り組んでいる」「生活に生かしている」と回答した児童90%以上 ○生活リズムを整えようと意識している児童を90%以上	・「六角っ子がんばろう週間」での保護者との協働による生活習慣の定着 ・歯と口の健康づくりに関する家庭・地域と連携した取組の充実	たくましく部 校内研究部
	○安全に関する実践力の育成	○「廊下歩行や登下校等で安全に気を付けた行動をすることができる」と回答した児童90%以上 ○緊急時に「おかしも」等の適切な行動を取ることができた」と回答した児童90%以上	・歯、口の外傷の防止に向けた指導の充実と安全な環境の整備 ・避難訓練の内容や事前事後の指導を充実させる。	たくましく部 校内研究部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外勤務時間の削減	●月の時間外勤務の平均45時間以内を達成できた職員を80%以上。	・町内一斉定時退勤日(月2回)の定時退勤を徹底する。 ・18時30分退勤を目標とし、個々で時間外勤務時間を調整する。	管理職
	○業務の効率化の推進	○行事等の精選や仕事の優先順位をつける等、業務の効率化が進んだ」と回答する職員を80%以上。	・放課後の会議等の時間設定の見直しと教育的効果を検討した上での行事の削減に取り組む。 ・業務の優先順位と既存のデータの有効活用に取り組む。	管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○特別支援教育の充実	○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上。	・特別支援に関する研修会の実施 ・月1回の特別支援・生徒指導連絡会の実施、ケース会議開催により情報を共有し支援を行う。 ・不登校対策支援シートの活用	やさしく部